

歯削る機器 7割使い回し

国立研調査 ウイルス感染の恐れ

歯を削る医療機器を滅菌処置せずに患者間で使い回している歯科医療機関が約7割に上る可能性のあることが、国立感染症研究所などの研究チームの調査でわかった。患者がウイルスや細菌に感染する恐れがあり、研究チームは、患者ごとに清潔な機器と交換するよう呼びかけている。

調査対象としたのは、歯を削るドリルを取り付けた柄の部分。歯には直接触れないが、治療の際には口の中に入るため、唾液や血液が付着しやすい。使用後は、高温で滅菌処置をした清潔な機器と交換することが、日本歯科医学会の診療指針で定められている。

調査は、特定の県の歯科医療機関3152施設に対して実施した。2014年1月までに891施設(28%)から回答を得た。

滅菌した機器に交換しているか聞いたところ、「患者ごとに必ず交換」との回答は34%だった。一方、「交換していない」は17%、「時々交換」は14%、「患者が何らかの感染症にかかっている時だけ交換」は35%で、計66%で機器を適切に交換していなかった。

同じ調査は、07～13年に計4回、別の県でも行っており、使い回しの割合は平均で71%だった。

研究チームの東福英信・国立感染症研究所室長によると、多くの歯科では、人手や費用がかかり、簡単な消毒や洗浄をただだけで繰り返し使っているとみられる。歯科関係者の間では、ドリル部分も、同様に滅菌せずに使い回しされているという指摘もある。

厚生労働省によると、歯科での院内感染は原因の特定が難しく、国内で明らかになった例はないという。

しかし、アメリカでは、複数の歯科でB型肝炎ウイルス、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)の感染が報告されている。



当院では、20年前より、タービンおよびドリルについて滅菌対策をとっており、現在は専用オートクレーブにて完全滅菌を心がけております。

また、麻酔注射についても注射筒まで滅菌しており、ゴム手袋や器具など、使い捨てが必要と思われる器材は安心・安全のために全て使い捨て器材を使用しています。

そして、感染予防のため、歯を削る時に口腔外へ飛び散る血液、削りカス等を口腔外バキュームの強い吸引力によって吸い取ったり、病院専用の除菌能力の大きな空気清浄機システム、強力イオンクラスターを設置しております。